

## 寛仁親王妃信子殿下お成り

### —第17回 寛仁親王妃杯女子コスモスゲートボール大会にご臨席—



「元気でいてくれてよかった・・・」

信子殿下が久保自治会会長の手を握りしめ、万感の思いでおっしゃいました。

9月30日、第17回寛仁親王妃杯女子コスモスゲートボール大会が新生園で行われ、信子殿下がご来園、その前日、新幹線のくりこま高原駅にお出迎えしたときも、殿下は開口一番、「久保さんは元気

なの、いくつにおなりになったの？」と久保自治会会長のことを大変気にしておられるようでした。久保会長の年齢をお伝えすると、「そんなに・・・」と、経過した時間の長さに絶句されておいででした。

12年ぶりにご来園になり、久保会長とお会いし元気な様子をご覧になり、安堵されたようでした。開会式では信子殿下よりお言葉をいただき、その後、始球式に臨まれました。始球式ではボールは通過するかしないかの微妙なところでしたが、審判長の好判断で、見事通過とのこと。殿下もおとされたご様子でした。

ゲートボール大会の会場を信子殿下はご自身から回られ、一つひとつのチームにお声かけをさ

次ページへ続く▶

目次	寛仁親王妃信子殿下お成り・・・・・・・・・・・・・・・・	園長	横田	隆
	口から食べるということ・・・・・・・・・・・・・・・・	言語聴覚士	新田	敏雄
	院内感染対策研修に参加して・・・・・・・・・・	第2メープルケアセンター・治療棟看護師	保科	海美
	災害時の炊き出し訓練を実施・・・・・・・・・・	補給係	本田	充
	夏まつり・花火大会、物故者慰霊祭、敬老の集い、秋季バス旅行を実施 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	医療社会事業専門員	瀬川	将広

### 理念

入所者の人権を尊重し、  
安心で安全な生活を提供します

### 基本方針

1. 快適な療養・生活環境を提供します
2. 安心で信頼される医療の充実に努めます
3. やさしい看護と介護を提供します
4. ハンセン病の正しい知識の啓発普及に努めます
5. 職員の教育・研修に努めます

### 入所者の権利

当園では、園の理念に基づき、入所者のみなさまの

- 人格を尊重される権利
- 良質な医療を受ける権利
- 十分な説明と情報を受ける権利
- 自己決定の権利
- プライバシーが保護される権利

を尊重します。

れ、その都度、写真撮影に応じて下さいました。写真に入っていない選手には、殿下から「写真一緒に撮りましょう」とお言葉をいただき、プラカードを置きに戻ろうとする選手には、「それ、私が持つ」と殿下ご自身がプラカードをかかげて写真撮影に応じて下さり、私はただただ頭が下がる思いでした。感激した選手達から握手攻めに遭い、アイドルグループの握手会の様相を呈してきて、アイドル顔負けの終始和やかなご様子に、殿下の気配りに感動しておりました。

一人ひとりの選手に、「頑張ってるね」「元気でね」とお言葉をかけて下さり、選手達は全員、「あぁ、大会に参加してよかった・・・」と感じたことと思います。

当園の概況説明では16年前の第一回目の大会の写真をお見せしましたが、殿下はご自分のお若い頃の始球式の写真をご覧になり、イタズラっぽい笑顔を浮かべながら、「うーん、こういうの、“使用前使用後”って言うのよね!」とおっしゃいます。上から目線でない殿下ならではの言葉とはいえ、私も返答につまり、「滅相もございません」



とお答えするのが精一杯でした。

入所者の集まりにもご参加いただき、一人ひとりにお言葉をかけていただきました。入所者も信子殿下から手を握って頂いたり、優しく労いのお言葉を頂戴したり、勇気と優しさを頂いたと心から感謝しています。

今後とも、信子殿下のご体調の健やかなことをお祈りすると共に、今後も是非、ゲートボール大会にご参加下さり、私たちに生きる希望をお与え下されば幸いですと感じている次第です。

園長 横田 隆

## 口から食べるということ

「ああ～美味しかった。腹いっぱい。」

長期間飲み食いが一切出来ない状態だった入所者さんが、昼食を食べ終わった時に発した言葉です。私はこの言葉を聞き改めて「口から食べること」の重要性を再認識しました。

人間は食べないと栄養不足で死んでしまいます。しかし、医療の進歩により、口から食べなくても高カロリーの点滴を投与したり、胃に穴を開けてそこから栄養を入れることによって、生命を維持できるようになりました。医療従事者としては大変に喜ばしいことですが、食べる楽しみがそこには存在しません。「口から食べること」は人としての本能的な欲求であり、また、食べ物を見て、匂いを感じ、口で噛み、味わうという、食べるという行為を楽しみにしている人も少なくありません。

当園でも入所者の高齢化が進み、喉や舌の筋力の低下、呼吸筋の低下等により、食事中に「げほげほ」とむせ込む方が多くなってきたように感じられます。最初は水分のむせ込みから始まり、固形物でもむせ込んでしまい、更に悪化すれば飲食しなくても、自分の唾でむせ込んでしまいます。では、むせ込んでしまい、ご飯が食べ難くなってきた時はどう対応するでしょうか。当園では言語聴覚士がいるので、そのような方に対して食べる訓練を実施します。

足を動かしたり、手を動かすのが一般的なリハビリのイメージですが、口や喉を動かすことも食べる

ための立派なリハビリです。声を出し、舌を動かし、唾をゴックンし喉を動かし、深呼吸をしながら、嚥下(飲み込みする能力)関連筋群を強化させます。更に少量でも食べ物を摂取する訓練をすれば、味覚が脳を刺激し精神に活力を与えます。また、口から食道を通り胃に送られた食べ物は胃から直接注入された食物よりも比較的消化吸収が良く、下痢などの消化器症状が起き難いと言われています。嚥下状態が悪い方は誤嚥(食べ物が気管に侵入し、場合によっては肺炎を起こす)してしまう危険性もありますが、やはり、可能な限り口から食べ、「食」を楽しんで欲しいと考えます。今回私がリハビリを担当した入所者さんは7カ月間もほぼ寝たきりの長期絶飲食状態でした。当初は楽しみ程度まで食べられるレベルが目標でしたが、本人の食に対する強いこだわりと長期に渡る嚥下訓練、他職種からの協力の結果、NGチューブ(鼻から管を入れ、そこから栄養剤を入れるもの)を抜去し、毎日3食口からご飯を食べられるまで回復しました。再び口から食べるのは大変な時間と労力が必要となる場合が多いのですが、「ああ～美味しかった。腹いっぱい。」という入所者さんの何気ない一言を聞いた時、口で食べる極当たり前の行為は、人間生活を送る上で大切な人生の一部であると感じました。

言語聴覚士 新田 敏雄



入所さんが昼食を食べ終わった後です。残さず全部召しあげりました。

## 園内感染対策研修に参加して



6月22日に、国立病院機構仙台西多賀病院、感染管理認定看護師の石栗広志先生を講師にお招きし、全職員

を対象とした研修が開催されました。テーマは「スタンダードプリコーション～PPE装着について～」でした。近年、感染対策は日々新しい考え方が取り入れられ、当園でも古い考えを捨て、新しい知識や技術を習得することにリンクナース一丸となり頑張っており取り組んでいます。この研修開催のきっかけは、感染防止の為に今まで使用してきた布製のエプロンからビニールエプロンに変更するというリンクナースで打ち出された目標に向かい、職員全体で感染対策の正しい知識を持ち、意識を高めようという考えからでした。

研修時間は90分で、40名の職員が参加しました。パワーポイントを使用した講義と演習の2部に分かれ、講義では、感染対策基本の「き」について



お話がありました。布製のエプロンは付着物の吸湿により内側が汚染される為、吸湿しないビニール製を使用する施設が増えているというお話でした。演習では、成人実習モデル人形を使用し、蛍光塗料を排泄物に見立て、当園の看護師と介護員が陰部洗浄とオムツ交換をしました。その後、蛍光塗料の飛散や接触の状態を確認することで、汚染が伝播している状況がよく分かりました。手指衛生の演習も行いました。医療サービスを提供する看護者の手が汚染されていると、入所者に伝播し感染症にかかるリスクが高まります。また、看護者自身も同様に伝播するリスクの対象となります。まずは手を清潔に保ち、ケアの時はエプロン、

マスク、手袋を使用した標準予防策を確実に実施することが重要であることを学びました。

研修内容はとても理解しやすく、研修後のアンケートでは、実技もあり分かりやすい、実践で生かすことができるという意見が多くありました。入所者はじめ自分自身も守ることができるよう、日頃の忙しさや慣れで省略したりせずに標準予防策を守り、この研修で学んだ感染対策基本の「き」を生かしていきたいと思います。



第2メープルケアセンター・治療棟看護師 保科海美

## 災害時の炊き出し訓練を実施

7月29日（水）13時30分から防火訓練が、多くの入所者・職員の参加のもと行われました。

終了後、災害時を想定した炊き出し実施訓練を行いましたので報告します。

この訓練の目的は、従来から非常食の備蓄は行っておりましたが、その調理に関しては、給食調理場で行うこととしており、万が一、調理場が使用できない場合、調理器具が使用できない場合及び調理師が出勤できない、招集できない場合を想定して、調理師以外の職員が、給食調理場以外で調理することができるか、調理する際にはどのような問題が生じるか検証するため、炊き出し訓練を実施することとしたものです。

避難公園に設置してある炊事場（流し台、給水、排水設備あり）を使用、以前、炊き出しができるよう購入していた災害用竈（普段は緑地の休憩用の椅子として活用）の数度にわたる入念な着火試験を行い、いざ本番！焼きそば・串焼き、豚汁の3品が完成しました。

出来上がった品を訓練に参加した職員等で楽しく試食会を行いました。この日の炊き出し訓練が有事の際に生かせればと思います。

次は、暑さ寒さの丁度良い時期に行いたい…と、多くの参加者が話しておりました、そんな梅雨明け後の猛暑に参加いただきましてありがとうございました。

また、材料の下拵えをしていただいた栄養班の皆さん、調理にご自慢の腕をふるわれた看護課の皆さん、準備その他全般にご協力いただいた庶務課の皆さんご協力ありがとうございました。

補給係 本田 充

## 夏まつり・花火大会



今年で17回目となる夏まつり・花火大会は、現在石巻市で開業医をされている元副園長の森芳正先生のご厚意により、入所されている方々への慰問及び地域住民のみなさんとの交流を深めることを目的として開催されています。

午後3時から夏まつりが開催されました。園内の睦ヶ池の辺に建つ新生会館、福社会館に催し物会場が設けられ、多くの子



ども達が輪投げやくじ引き、金魚すくいを楽しんでいました。

また今年は長年花火大会を続けてくださった森先生に感謝の意を含め、表彰させていただいた後、これまで新生園で亡くなられた物故者の御霊に捧げる慰霊灯籠を睦が池に浮かべました。

夜 7 時から花火大会が行われ、盛大に花火が打ち上げられ、会場のお客様からも大きな拍手と歓声が沸き上がっていました。



## 物故者慰霊祭

9月7日園内の霊安堂前で慰霊祭が執り行われました。

毎年入所者自治会の発足した日にちなみ日程が決められ行われます。あいにくの雨模様でしたが式典開始前に雨が上がり、多くの入所者と職員が参列し新生園で亡くなられた入所者の御霊に

祈りが捧げられました。

この日は夕方まで霊安堂の扉が開放され、亡くなられた親族やゆかりの方に線香をたむける方がお参りに訪れました。



## 秋季バス旅行

9月11日新生会館において「庄司恵子公演会」が開催されました。

庄司恵子さんと娘のたらさわかすみさんは仙台から宮城県北にある当園に向かってこられる予定となっていました。前日の10日から11日未明にかけては全国ニュースでも放送されるほどの豪雨被害が北関東、東北を襲いました。

そのため仙台から新生園に向かう主要幹線道路である国道4号線は河川氾濫のため通行止めになっており、頼みの綱である東北自動車道も通行止めとなってしまいました。

はたして来ていただけるのか!?さすがに今日は無理でもやむを得ないのではないか!?と皆が思う中、予定到着時刻よりは若干遅れたものの、迂回路を通過して駆けつけてくださいました。

宮城県内では知らない人はいない!といわれるほどの人気者である庄司恵子さんのステージに皆さん盛大な拍手と声援を送られていました。



## 敬老の集い

晴天の10月23日、仙台市秋保にある定義如来西方寺に楓会秋季バス旅行に出かけてきました。

1年ぶりの定義如来へのお参りを楽しみにされている方、お土産をいっぱい買って旅行にこられなかった友人の入所者さんに配るのを楽しみにしている方、それぞれの思いで観光を楽しまれました。

紅葉はもうちょっと進んだくらいが本当の見頃だったので青空に染える楓や银杏の木が秋の気分を満喫させてくれました。

## 職員募集

当園では、次のとおり職員を募集しております。採用を希望する方はお気軽にお問い合わせください。

1. 採用職種
  - ①看護師 ②看護助手
- 1) 身分
  - ①定員職員 ②期間業務職員
- 2) 採用予定期間及び採用人員
  - ①採用の日～ 3名
  - ②採用の日～ H29.3.31 8名  
(年度更新)
- 3) 応募資格
  - ①看護師免許取得者 ②経験・資格不問(どなたでも応募できます。)
- 4) 勤務内容
  - ①看護業務(三交替制、早出・遅出有り)②介護業務(日勤、早出・遅出有り)
  - ①②1日あたり 7時間45分 週38時間45分勤務
- 5) 加入保険等
  - ①共済保険、共済年金 ②協会けんぽ、厚生年金 に加入
  - ※②の職員は、1年経過後から共済保険に加入となります。
- 6) 応募方法
 

市販の履歴書に写真貼付、看護師は免許証(写)を郵送又は持参  
豊かな自然に恵まれ、四季折々の行事、数々の訪問行事を行っておりますので、  
入所者の皆さんと関わり合いながら楽しみながら当園で働いてみませんか。  
看護・介護の研修体制も充実しておりますので、  
初めての方も心配なく安心して働くことができます。  
興味のある方は、当園のホームページに、看護課の方針、看護体制、研修計画、  
処遇等を掲載しておりますので是非ご覧いただき、お気軽にお問い合わせください。
- 7) お問い合わせ、応募先

〒989-4692 宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢1  
国立療養所東北新生園  
TEL 0228-38-2121 FAX 0228-38-3765  
E-mail 2302sy01@sinseien.nhds.go.jp



## 入所者数の推移

年度	入所者数			退所者数					平均入所者数
	再	新	計	軽快	死亡	転園	その他	計	
18			0		7			7	156.2
19			0		7			7	148.4
20			0		10			10	139.9
21			0		2			2	135.2
22			0		10			10	129.4
23			0		14			14	118.0
24			0		11			11	105.1
25			0		10			10	95.3
26			0		4			4	86.7
27			0	2	9			11	79.6



発行元 国立療養所東北新生園  
National Sanatorium Tohokushinseien

発行責任者 国立療養所東北新生園  
広報誌編集委員会

〒989-4692 宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢1番地  
TEL 0228-38-2121 FAX 0228-38-3765  
URL <http://www.nhds.go.jp/sinseien/>  
E-mail [admin@sinseien.nhds.go.jp](mailto:admin@sinseien.nhds.go.jp)